



GXflow 15

セットアップガイド

2017 年 6 月改訂



GeneXus Japan Inc.

Copyright © 2017 GeneXus Japan Inc. All rights reserved.

本書には正確な情報を記載するように努めました。ただし、誤植や制作上の誤記がないことを保証するものではありません。なお、**本書に記載されている画面はソフトウェアの更新などにより予告なく変更される場合があります。**ご了承ください。

本書に記載のその他の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。GeneXus Japan Inc. は他社製品の性能または使用につきましては一切の責任を負いません。

ジェネクス・ジャパン株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2 丁目 27 番 3 号

電話番号 : 03-6303-9381 FAX : 03-6303-9980

<http://www.genexus.jp>

目次

目次	3
はじめに.....	4
開発環境のセットアップの流れ.....	5
開発環境の準備	7
GXflow クライアントのインストール (SQL Server 以外のターゲット環境の場合)	7
レジストリ情報を変更する	9
ライセンス請求	11
新規ライセンス請求.....	11
継続ライセンス請求.....	15
ライセンス取得	17
GXflow ユーザーのノミネート (登録)	19
ユーザーを 1 件ずつノミネートする.....	19
複数のユーザーを一度にノミネートする	21
ライセンスのアンインストール.....	23
ライセンスの移行	25
ライセンスの再発行について	30
緊急ライセンスについて.....	31
付録 : ネットワークプロテクションの設定例.....	32
ネットワークプロテクションの設定について	32
GeneXus Protection Server のインストール.....	33
管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について	36
トラブルシューティング	46

はじめに

本書では、GXflow 15 を使用するために必要なセットアップ、ライセンスの請求・取得、クライアントユーザーのノミネート（登録）、およびライセンスの移行・アンインストール手順について説明しています。また、巻末には付録としてアプリケーションサーバーとは別のサーバーにライセンスを保有させる仕組み（ネットワークプロテクション）の例を記載しています。

GXflow をお使い頂く際には、ライセンス請求の前に注文書を弊社宛に郵送して頂く必要があります。弊社での注文書の確認前にライセンスの請求を行うと、ライセンスの発行が遅れる場合があります。なお、事前にユーザー登録された担当者以外のライセンスの請求は受け付けておりません。

GXflow のライセンスの転売は禁止されております。同一のお客様および組織変更などの場合を除き、ほかのお客様に変更／譲渡することはできません。ライセンスの請求・登録の際には必ず内容を確認し、ライセンスの取り扱いには十分に注意してください。

開発環境のセットアップの流れ

このセクションでは、GXflow 15 および関連アプリケーションのインストール、ライセンス請求および取得（登録）、GXflow ユーザーのノミネート（登録）までの流れを簡単に説明します。

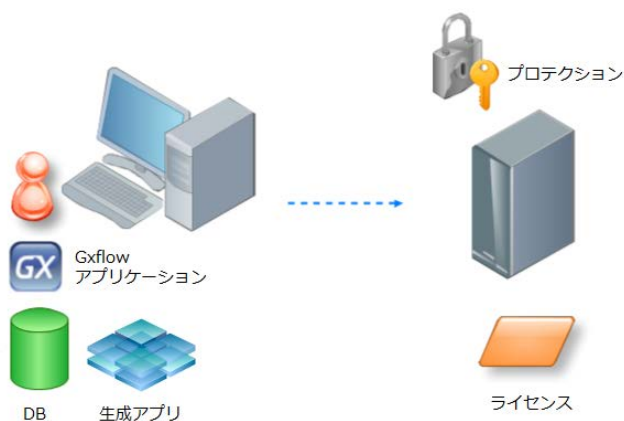
GXflow アプリケーションでは、ライセンス管理機構上、特定の処理の実行時、処理対象ユーザーが登録されているかどうかの照合を行います。このため、ライセンス管理用のサーバーには、クライアントユーザーのノミネートを行う、GeneXus Protection Server をインストールする必要があります。

GeneXus のライセンスシステムには、次の図のようなアプリケーションがインストールされているマシンにライセンスを保有させる「**ローカルプロテクション方式**」と GeneXus Protection Server にライセンスを保有させる「**ネットワークプロテクション方式**」があります。GeneXus および GXflow のご使用環境に応じて、Protection Server のインストール先を決定する必要があります。なお、本書では「**ローカルプロテクション方式**」によるライセンス管理を前提にしています。「**ネットワークプロテクション方式**」の設定については「[付録：ネットワークプロテクションの設定例](#)」(P32)を参照してください。

ローカルプロテクション方式



ネットワークプロテクション方式



GXflow ライセンスの運用方法が決まったら、次の手順でセットアップを行います。

1. 開発環境の準備

- **GXflow 15 Runtime Clients:** SQL Server 2005/2008/2012/2014 を使用する Java 開発環境および .NET 開発環境の場合、GeneXus 15 のインストール時に**自動的にインストールされます**。それ以外の環境の場合、GXflow 15 Runtime Clients のインストールが必要です。

2. GXflow [ライセンスの請求](#)および[取得](#)

GeneXus Protection Server 内の「GeneXus License Manager」を使用し、GXflow ライセンスの請求および取得を行います。

3. 通常ライセンスの[ユーザーのノミネート \(登録\)](#)

GXflow には次のようなライセンス形態があります：

- **通常ライセンス：**10～500 ユーザーを対象としています。GXflow のユーザーを登録してから使用する必要があります。登録できる**ユーザーの上限はご購入ライセンス数の範囲内**となります。
- **コーポレートライセンス：**ユーザー数無制限のライセンスです。**ユーザーの登録は不要です**。

※本書では通常ライセンスのユーザーのノミネート方法について説明しています。

参考：「コーポレートライセンス」のユーザー数無制限の範囲は、1 つの Protection Server に限られます。

複数の Protection Server を運用する場合には、複数のコーポレートライセンスまたは、ユーザー数に応じたライセンスが必要となります。

開発環境の準備

C#および Java の SQL Sever^{*1}をターゲット環境とする場合、GXflow 15 Runtime Clients（以後 GXflow クライアント）は GeneXus 15 のインストーラからインストールされます。お使いのコンピューターに **GeneXus 15 がインストールされている場合、「GXflow クライアント」をインストールする必要はありません**。それ以外のシステム（PostgreSQL、MySQL、Oracle など）をターゲット環境とする場合、GXflow クライアントを別途インストールする必要があります。

また、GXflow を使用するユーザーの事前登録に必要な GeneXus Protection Server をライセンス管理用のサーバーにインストールする必要があります。このセクションでは、GXflow クライアントのインストール方法について説明します。

GeneXus 15 のインストール方法ならびにシステム要件については、GeneXus 15 インストーラに付属の「**GeneXus 15 インストールガイド**」を参照してください。

^{*1}: SQL Server 2005/2008/2012/2014 を使用する Java 開発環境および.NET 開発環境

GXflow クライアントのインストール (SQL Server 以外のターゲット環境の場合)

1. GeneXus Japan の Web サイト (<http://www.genexus.com/downloads/products-jp?ja>) からお使いの GeneXus と一致するバージョンの「GXflow クライアント」をダウンロードします。
2. 「gxflow15un.exe」といった名前のセットアップファイルを起動します (Windows Vista～Windows 10 をお使いの場合は右クリックして「**管理者として実行**」を選択します)。

重要： セットアップファイルの実行中に、「GeneXus 15 Un がインストールされていません」といった内容の英文のメッセージが表示される場合、後述の「[レジストリ情報を変更する](#)」(P9)を参照し、記載の手順にしたがってください。

次のような画面が表示されます。



3. 必要に応じてインストールパスを変更し、「次へ」をクリックします。
4. 次のような画面が表示されますので、必要となる環境の名前の先頭にあるチェックボックスをチェックします。



5. 「インストール」をクリックします。インストールの進捗状況を示すプログレスバーが表示されます。
6. 次のようなインストールの完了を示す画面が表示されたら、「閉じる」をクリックします。



これで GXflow クライアントのインストールは完了です。

レジストリ情報を変更する

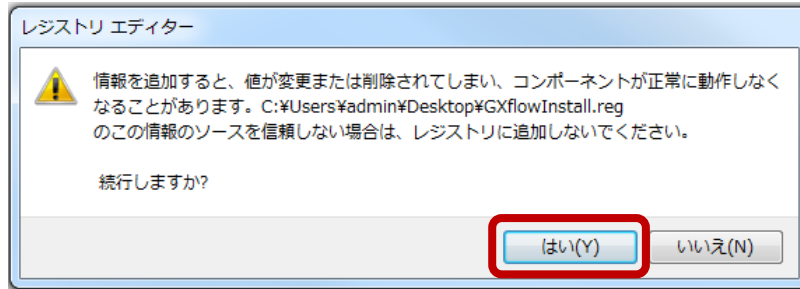
GXflow クライアントアプリケーションのインストーラの起動時に「GeneXus 15 Un がインストールされていません」といった内容の英文のメッセージが表示される場合、次の手順にしたがってレジストリ情報を変更する必要があります。

1. 「Gxflow15Client_JP」フォルダ内の「Gxflow15_Client.reg」をダブルクリックで開きます。



2. 「次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか?」といったウィンドウが表示されたら「はい」をクリックします。

3. 次のようなウィンドウが表示されます。内容を確認してから「はい」をクリックします。



注意： GeneXus 15 のインストールパスが既定ではない場合、「Gxflow15_Client.reg」ファイルをテキストエディタで開いて、インストールパスの設定を変更する必要があります。「InstallDir」の右側には GeneXus 15 のインストールパスを指定し、「Upgrade」右側にはお使いの GeneXus 15 のアップグレード番号を入力します。

REGEDIT4

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥ARTech¥Setup¥GeneXus 15 JP]

"InstallDir"="C:¥¥Program Files (x86)¥¥GeneXus¥¥GeneXus15JP"

"Version"="Release"

"Upgrade"="n"

"Build"="xxxxx"

これでレジストリの変更は完了です。前述の「[GXflow クライアントのインストール \(SQL Server 以外のターゲット環境の場合\)](#)」(P7)の手順にしたがって、GXflow クライアントをインストールしてください。

ライセンス請求

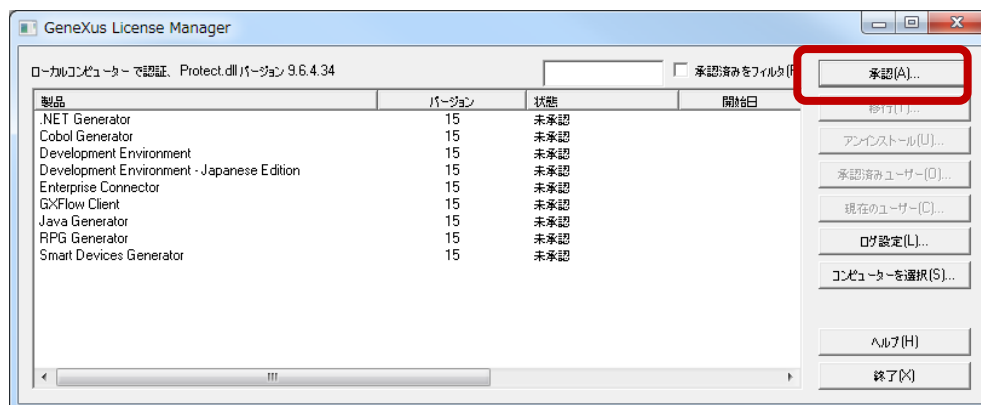
このセクションでは、ライセンスを新規で請求する場合、ライセンスの使用期限を残した状態で継続（期限の延長）請求する場合の手順について説明しています。

新規ライセンス請求

次の手順にしたがって、新規にライセンスを請求します。

1. GeneXus 15 Japanese Edition のプログラムグループから「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista～Windows 10 の場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

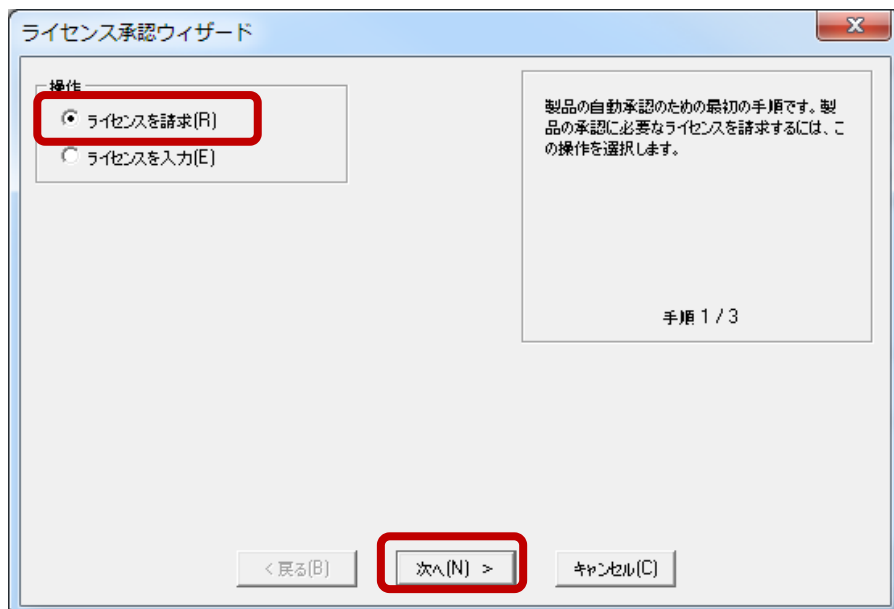
「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレーター）とライセンスの状態が表示されます。



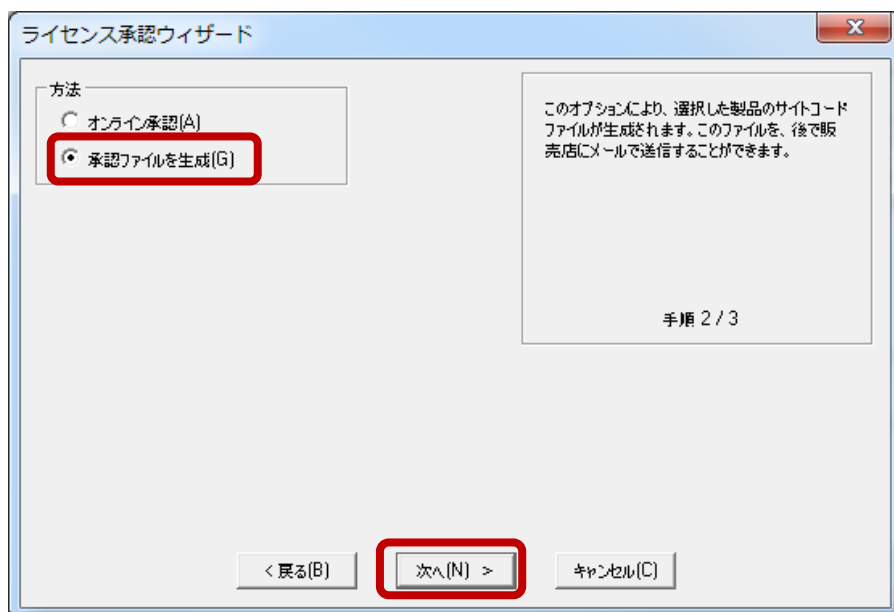
2. 「承認」ボタンをクリックします。

ライセンスの請求または取り込みオプションが表示されます。

3. 「ライセンスを請求」を選択してから「次へ」ボタンをクリックします。



次のようなライセンス請求方法の選択画面が表示されます。請求方法はオンライン（オンライン承認）とオフライン（承認ファイルを生成）の2種類があります。（現在、オンライン請求は承っておりません）

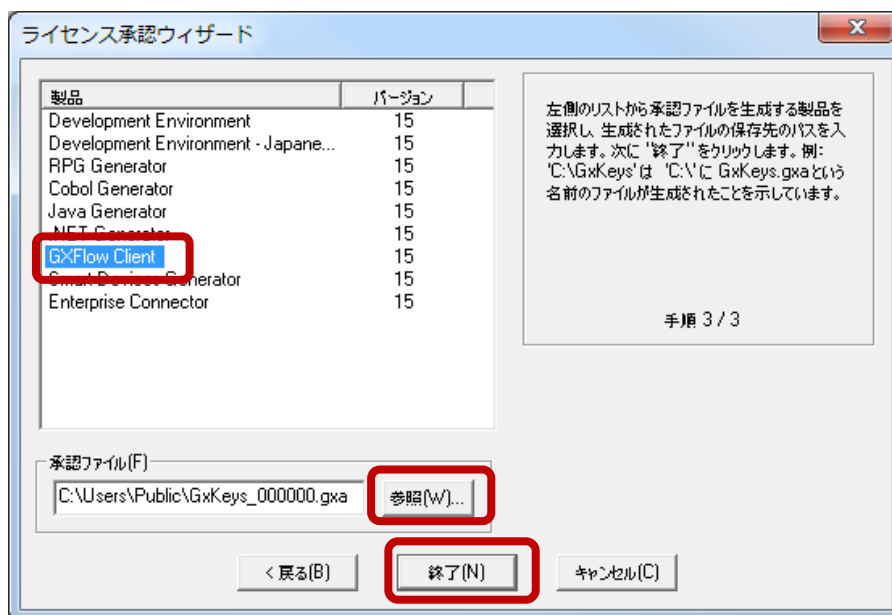


4. ここでは「承認ファイルを生成」を選択してから「次へ」ボタンをクリックします。

5. ライセンスを請求する製品の選択画面が表示されます。



6. 「製品」リストから「GXFlow Client」を選択してから、「終了」ボタンをクリックします。



7. 「.gxa」という名前のファイルが生成されます。このファイルの保存先を変更する場合には、「参照」ボタンをクリックしてから、任意の場所を指定します。

「.gxa」ファイルが生成されたことを示す、次のようなダイアログが表示されます。



8. 「OK」ボタンをクリックします。保存先を変更していない場合、GeneXus のプログラムと同じ場所に「.gxa」ファイルが保存されます。
9. メールアプリケーションで新規メールを作成し、手順 6 で生成した「.gxa」ファイルをご購入先のパートナーまたは keystmaster@genexus.jp に送信します。



注意：パートナーから GXflow 15 を購入されたお客様の場合、「.gxa」ファイルをパートナー宛に送信し、パートナーからライセンスキーを受領してください。受領したライセンスキーを取り込む方法については、後述の「[ライセンス取得](#)」(P17)を参照してください。

10. 以上でオフラインでのライセンスの請求は完了です。
11. ライセンスキーは、上記手順 7 の「.gxa」ファイルを送信したメールアドレスに送信されます。ライセンスを有効にする方法については、後述の「[ライセンス取得](#)」(P17)を参照してください。

重要：ライセンスの発行は GeneXus 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。ライセンスの請求は日程に余裕を持って行なってください。

ライセンス請求受付時間

土日祝日・年末年始を除く 9:00～16:00

時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

これでライセンスの請求は完了です。

継続ライセンス請求

ライセンスの有効日数が残存している状態で、有効日数を延長（ライセンスを継続）することができます。
このセクションでは、継続ライセンス請求について説明します。

重要：ライセンスの有効日数が0になると、ライセンスが失効されるため、新規にライセンスを請求しなおす必要があります。ライセンスの期限切れを防ぐため、ライセンスの継続請求は5営業日前までにお願い致します。
有効期限よりも早めに継続請求を頂いた場合は、1年間分の有効期間に早めに頂いた日数分をプラスしライセンスを発行致します。

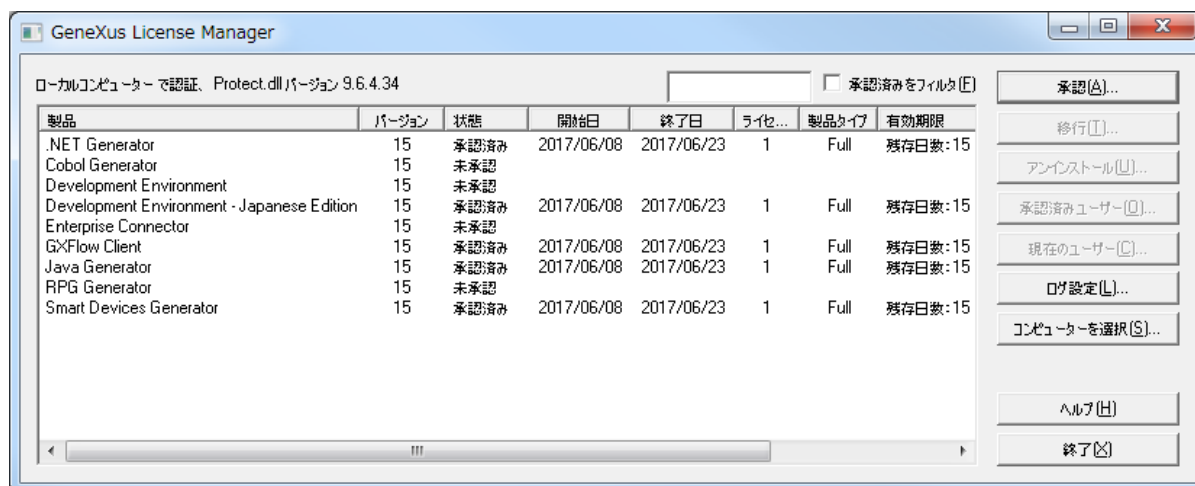
例) <2015年3月15日まで有効のライセンス>

2015年3月8日継続請求 → 2016年3月15日まで有効のライセンスとして、ライセンスを発行
1年間分+早めにご請求を頂いた日数分をプラスし、ライセンスを発行致します。

次の手順にしたがって、継続ライセンスを請求します。

1. GeneXus 15 Japanese Edition のプログラムグループから「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista～Windows 10 の場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレーター）とライセンスの状態が表示されます。



2. 「GeneXus License Manager」の起動時の画面（上図を参照）のスクリーンショットを撮り、保存します。

スクリーンショットには「製品」、「バージョン」、「状態」、「開始日」、「終了日」、「ライセンス数」、および「有効期限」の「残存日数」の内容が表示されている必要があります。

3. [「新規ライセンス請求」](#) (P11) セクションの手順 2～7 にしたがいます。
4. メールアプリケーションで新規メールを作成し、以下のファイルをご購入先のパートナーまたは keysmaster@genexus.jp に送信します。

- 「GeneXus License Manager」の起動画面のスクリーンショット
- 「Windows」フォルダにある「GxProt.log」ファイル
- 上記の手順で作成した「.gxa」ファイル

メールには、以下の情報をお書き添えください。

➤ **送信するメールの件名：** GXflow 15 ライセンス請求

➤ **メールの本文：**

- 弊社より送付済みのライセンス証書に記載のライセンス番号（6桁の数字）
- 貴社名
- ご担当者名
- お電話番号

以上で継続ライセンス請求は完了です。

ライセンスキーは、上記のファイルを送信したメールアドレスに送信されます。ライセンスを有効にする方法については、後述の「[ライセンス取得](#)」(P17) を参照してください。

重要：ライセンスの発行は GeneXus 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。ライセンスの請求は日程に余裕を持って行なってください。

ライセンス請求受付時間

土日祝日・年末年始を除く 9:00～16:00

時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

ライセンス取得

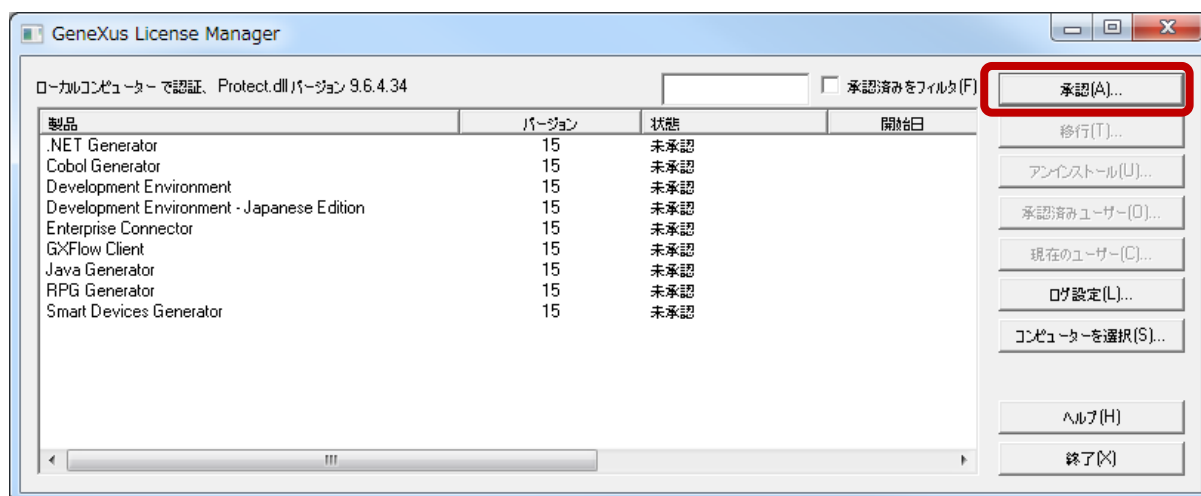
発行されたライセンスキーは、ライセンスを請求したメールアドレスに送信されます。添付のファイルを開いて、ライセンスを請求したコンピューターにデータを取り込むことでライセンスを登録することができます。

このライセンスファイルを開くと、「GeneXus License Manager」が起動して自動的にライセンスキーを取り込み、取り込み結果が画面に表示されます。

ここでは、手でライセンスファイルを取り込む場合の手順を説明します。

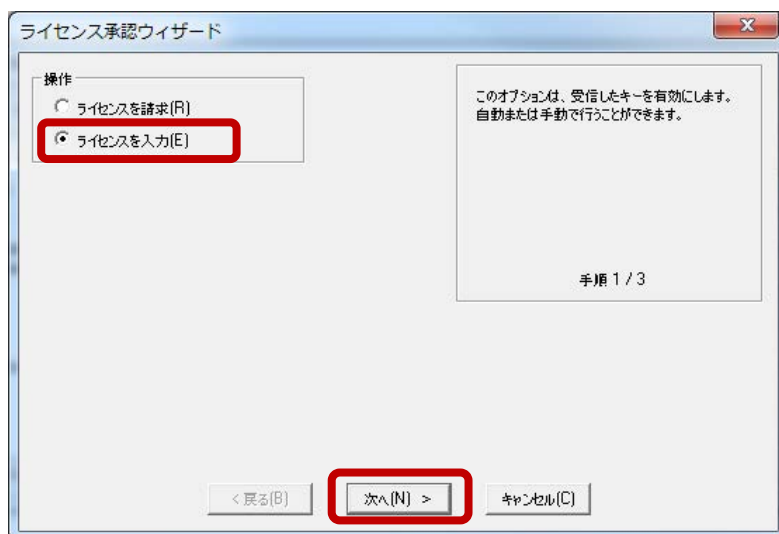
1. メールに添付されたライセンスファイルを、ライセンスを請求したコンピューターにコピーします。
2. GeneXus 15 Japanese Edition のプログラムグループから「GeneXus License Manager」アプリケーションを起動します（Windows Vista～Windows 10 の場合は「GeneXus License Manager」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレーター）とライセンスの状態が表示されます。



3. 「承認」ボタンをクリックします。

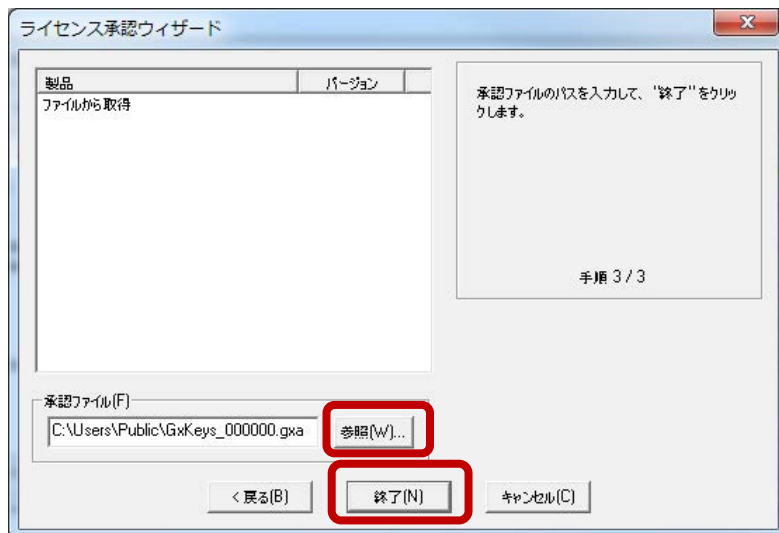
次のような取り込み画面が表示されます。



4. 「**ライセンスを入力**」を選択してから「**次へ**」ボタンをクリックします。
5. ファイルからライセンスキーを取り込む場合は「**ファイルから承認**」を選択して「**次へ**」ボタンをクリックします。

参考：「**手動承認**」を選択すると、メールの本文に記載されている製品ごとの 16 進数の長いコードを指定する必要があります。このオプションを選択する場合は入力ミスがないように十分に注意してください。

次のようなライセンスファイルの選択画面が表示されます。



6. 「**参照**」ボタンをクリックして、手順 1 でコピーしたファイルを選択し、「**終了**」ボタンをクリックします。

これでライセンスの取得（登録）は完了です。

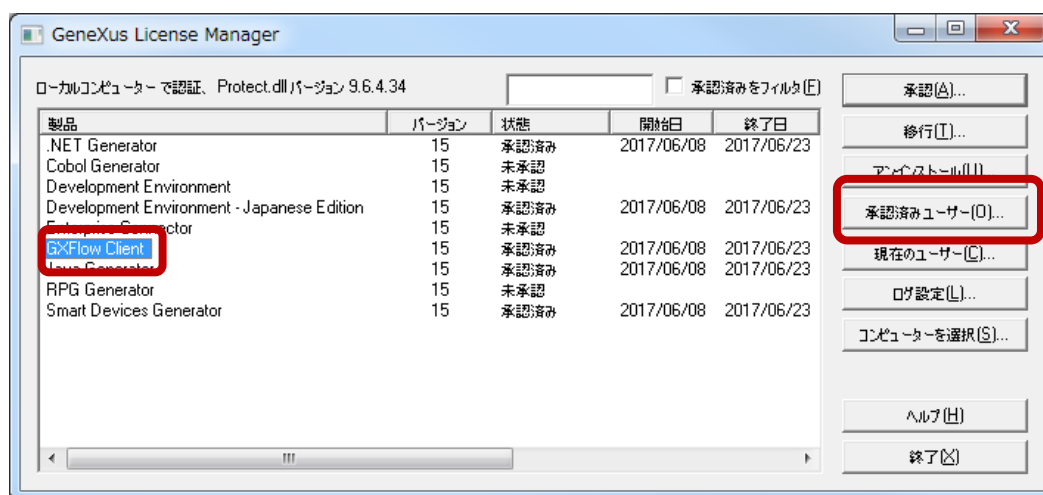
GXflow ユーザーのノミネート（登録）

通常ライセンスの場合、GXflow の Inbox（受信トレイ）を利用するクライアントユーザーをあらかじめ Protection Server にノミネートしておく必要があります。このセクションではクライアントユーザーのノミネート方法について説明します。複数のユーザーを一度にノミネートする場合は、事前にクライアントユーザー名を記述した XML ファイルを作成して取り込むこともできます。なお、「コーポレートライセンス」をお使いの場合、クライアントユーザーのノミネートは不要です。

重要： Protection Server にノミネートするユーザー名は、GXflow アプリケーションにログインするユーザーアカウント（ユーザー名）と同じである必要があります。なお、ノミネートしたユーザー名は後から変更することができます。

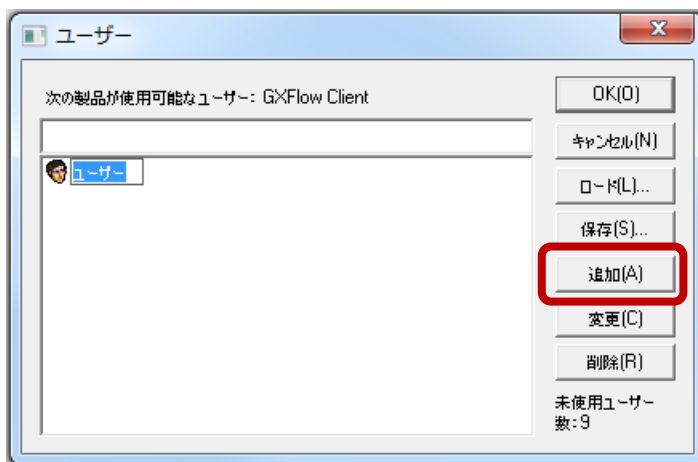
ユーザーを 1 件ずつノミネートする

1. 「GeneXus License Manager」アプリケーションを起動します（Windows Vista～Windows 10 をお使いの場合は「GeneXus License Manager」のショートカットを右クリックして「管理者として実行」オプションをクリックします）。
2. 「製品」リストから「GXFlow Client」を選択します。

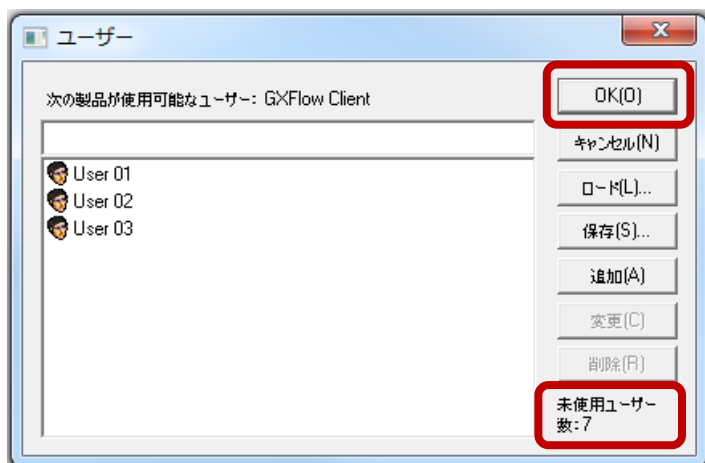


3. 「承認済みユーザー」ボタンをクリックします。クライアントユーザーの設定用ウィンドウが表示されます。

4. 「追加」ボタンをクリックし、顔のアイコンの隣のフィールドを選択します。



5. クライアントユーザー名を入力してから「OK」ボタンをクリックします。別のユーザーを登録する場合、手順 4~5 を繰り返します。



参考：上図の右下隅の「未使用ユーザー数」には、所有しているライセンスのうち、ノミネートされていないユーザー数が表示されます。

複数のユーザーを一度にノミネートする

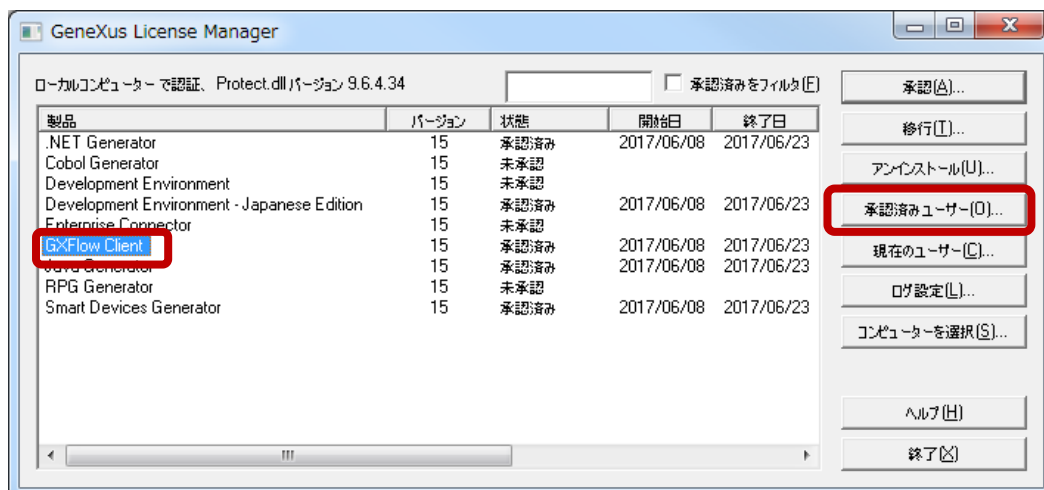
複数のユーザー名をリストした XML ファイルを使って、一度に複数のクライアントユーザーをノミネートすることができます。

1. 次の形式でクライアントユーザーを定義した XML ファイルを用意します。

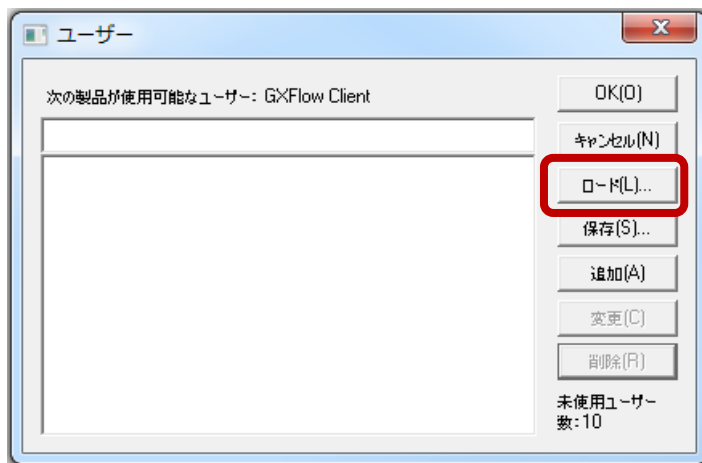
```
<Users>
  <User>User 01</User>
  <User>User 02</User>
  <User>User 03</User>
  ...
</Users>
```

参考：XML ファイルに含まれるユーザー数がノミネート可能なライセンス数より多い場合、ダイアログが表示され、任意にユーザーを選択することができますが、事前にライセンス数に合わせてデータベースから XML ファイルを出力するプログラムを準備しておくことをお勧めします。

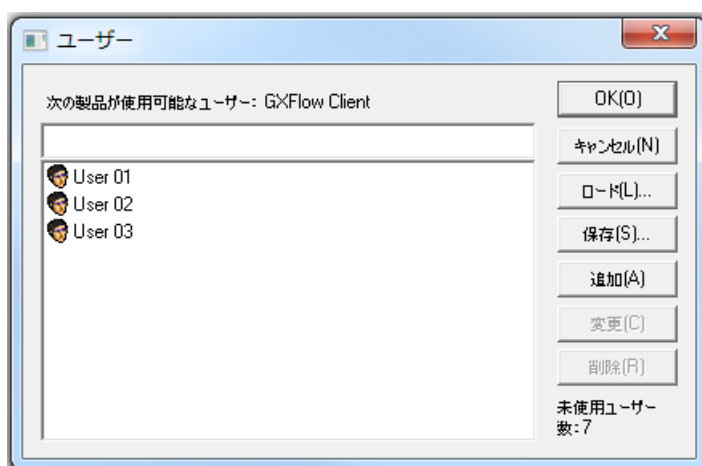
2. 「GeneXus License Manager」アプリケーションを起動します (Windows Vista～Windows 10 をお使いの場合は「GeneXus License Manager」のショートカットを右クリックして「管理者として実行」オプションをクリックします)。
3. 「製品」リストから「GXFlow Client」を選択します。



4. 「承認済みユーザー」ボタンをクリックします。クライアントユーザーの設定用ウィンドウが表示されます。



5. 「ロード」ボタンをクリックして、手順 1 の XML ファイルを選択します。



XML に登録されているユーザーが表示されます。これでユーザーのノミネートは完了です。

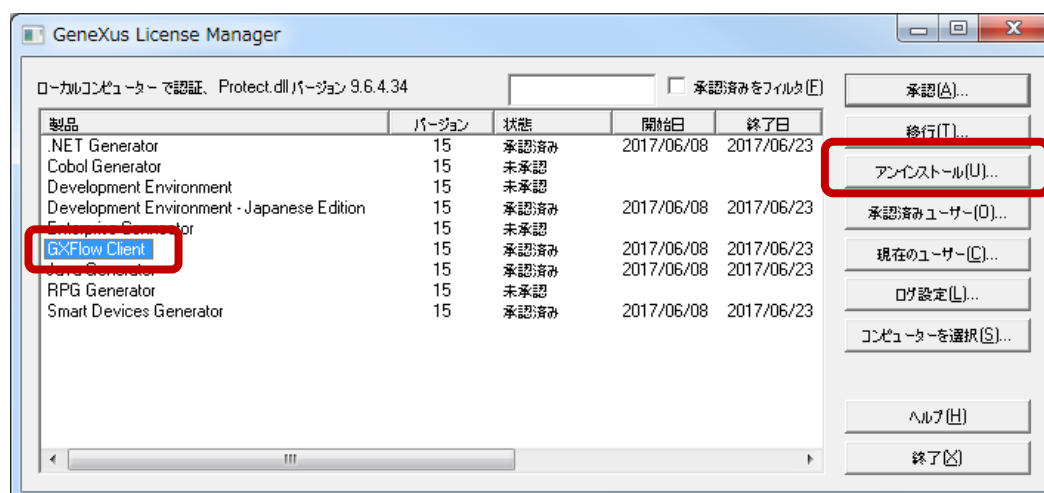
ライセンスのアンインストール

このセクションでは、GXflow ライセンスをアンインストールする方法について説明します。

重要： GXflow ライセンスをアンインストールする前に、クライアントユーザーが GXflow を使用していないことを確認してください。GXflow を使用しているユーザーがいる場合は、ライセンスのアンインストールはできません。

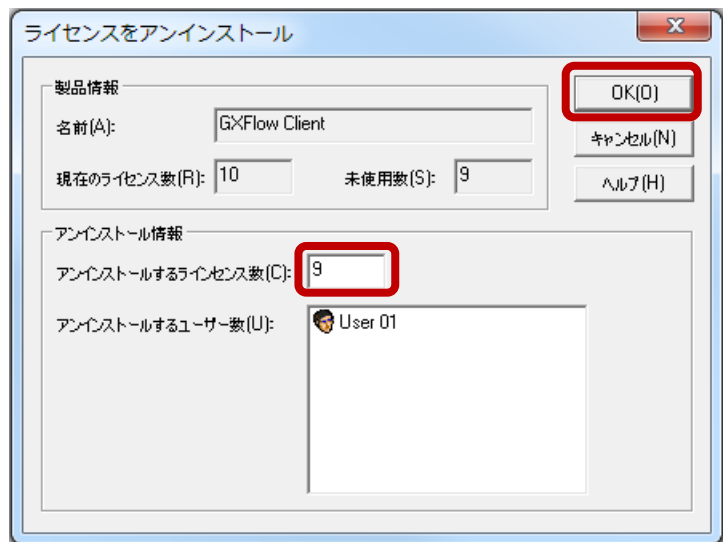
1. 「GeneXus License Manager」アプリケーションを起動します (Windows Vista～Windows 10 をお使いの場合は「GeneXus License Manager」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします)。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。



この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレーター）とライセンスの状態が表示されます。

2. 「製品」から「GXFlow Client」を選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。
次のような「ライセンスをアンインストール」画面が表示されます。



3. 「アンインストールするライセンス数」フィールドにアンインストールするライセンス数を入力してから、「OK」をクリックします。

注意：ライセンスを使用しているユーザーがいる場合には、手順 2 の図のように「アンインストールするライセンス数」フィールドにユーザー名が表示され、該当のライセンスをアンインストールすることはできません。

ライセンスの移行

Protection Server をインストールしているコンピューターまたはサーバーを交換する場合など、元のマシンで保有しているライセンスを別のマシンに移行することができます。

この場合、はじめにライセンスの移行先のコンピューター（ターゲットマシン）でライセンス情報の登録用ファイルを作成（Register License）し、次にライセンスがインストールされている移行元のコンピューター（ソースマシン）でライセンス情報を書き出し（Transfer Out）、最後にターゲットマシンでライセンスを読み込む（Transfer In）操作を実行する必要があります。

重要：ライセンスを移行する前に移行先のコンピューターおよびサーバーにインストールされている「Protection Server」のバージョンが同じであることを確認してください。異なるバージョン間ではライセンスの移行はできません。

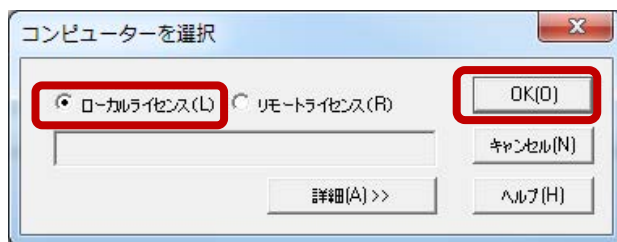
1. ターゲットマシン（ライセンスの移行先）内の「**GeneXus License Manager**」アプリケーションを起動します（Windows Vista～Windows 10 の場合は「**GeneXus License Manager**」のショートカットを右クリックして「**管理者として実行**」オプションをクリックします）。

「GeneXus License Manager」アプリケーションが起動すると、次のような画面が表示されます。

この画面には、製品の種類（開発環境、各ジェネレーター）とライセンスの状態が表示されます。



2. 「コンピューターを選択」をクリックします。「コンピューターを選択」ウィンドウが表示されます。



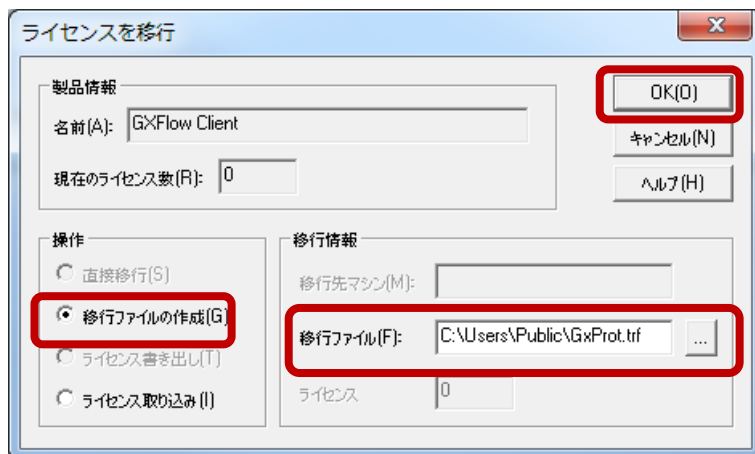
3. 「ローカルライセンス」のオプションが選択されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

「GeneXus License Manager」の起動画面に戻ります。

4. 「製品」から「GXFlow Client」を選択し、「移行」ボタンをクリックします。



- 「ライセンスを移行」画面が表示されたら、「操作」セクションの「移行ファイルの作成」を選択し、「移行ファイル」フィールドの右端にあるボタンをクリックし、「GxProt.trf」ファイルの保存先を指定します。

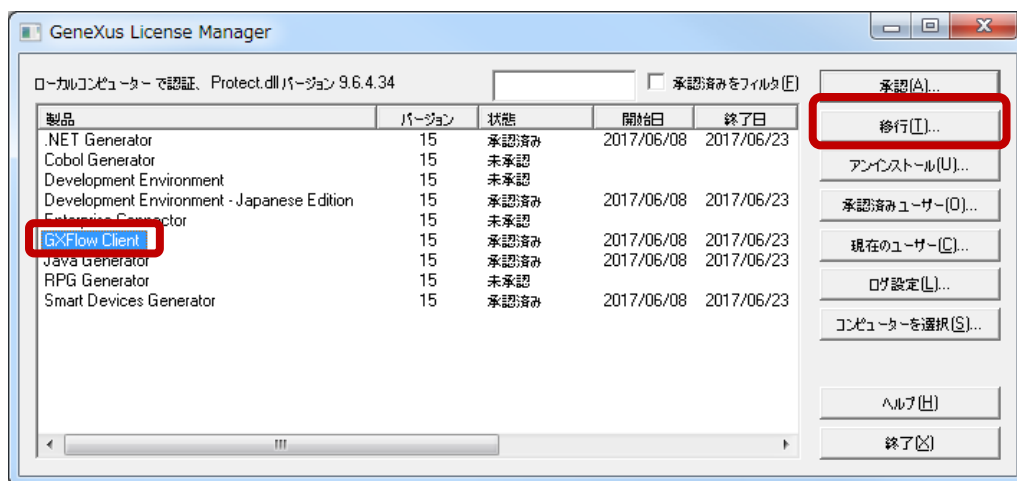


参考：「GxProt.trf」は既定のファイル名です。「.trf」の拡張子を持つ、任意のファイル名に変更してください。

- 「OK」をクリックします。
- 「GxProt.trf」ファイルをソースマシン（ライセンスキーがインストールされているコンピューター）にコピーします。

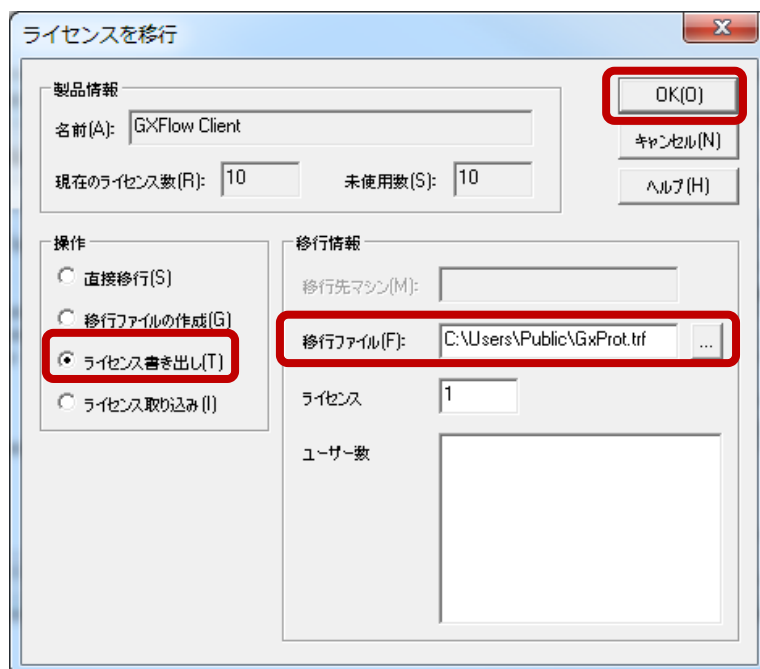
この後、ソースマシン（ライセンスの移行元）で操作を行います。

- ソースマシン内の「GeneXus License Manager」アプリケーションを起動します。次のような画面が表示されます。



- 「製品」から「GXFlow Client」を選択し、「移行」ボタンをクリックします。

10. 「操作」セクションの「ライセンス書き出し」を選択し、「ライセンス」フィールドに必要な数を入力してから、「移行ファイル」フィールドの右端にあるボタンをクリックし、手順5の「GxProt.trf」ファイルを選択します。



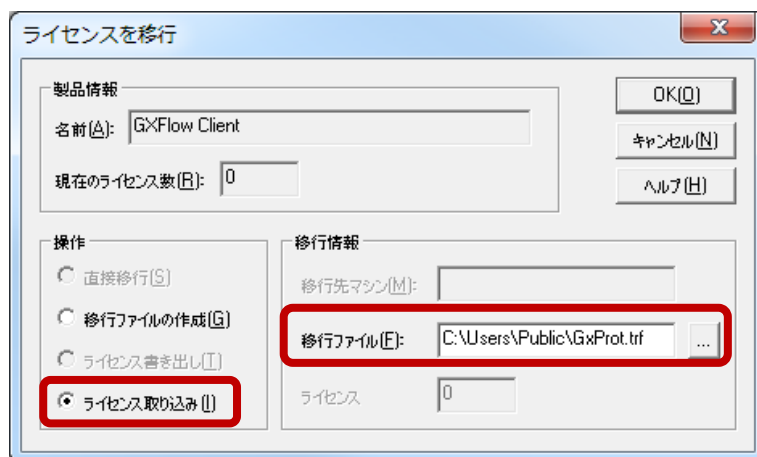
11. 「OK」をクリックします。
12. ライセンスデータを格納した「GxProt.trf」ファイルをターゲットマシン（ライセンスの移行先）にコピーします。

この後ターゲットマシン（ライセンスの移行先）に戻って操作を行います。

13. ターゲットマシン内の「GeneXus License Manager」アプリケーションを起動します。次のような画面が表示されます。



14. 「製品」から「GXFlow Client」を選択し、「移行」ボタンをクリックします。
15. 「操作」セクションの「ライセンス取り込み」を選択し、「移行ファイル」フィールドの右端にあるボタンをクリックし、手順 12 の「GxProt.trf」ファイルを選択します。



16. 「OK」をクリックします。
これでライセンスの移行は完了です。

重要： ターゲットマシン(移行先)でトランスファー(.trf)ファイルを作成後に、もう一度 .trf ファイルを作成しようとする、警告画面が表示されます。これは .trf ファイルに格納される情報が異なるためです。はじめに作成されたファイルを使って、ソースマシン(移行元)ですでに「ライセンス書き出し」処理が実行された場合、もう一度 2 度目に作成した .trf ファイルを使って「ライセンス書き出し」処理をやりなおす必要があります。

ライセンスの再発行について

GeneXus License Manager または Protection Server をインストールしているマシンの交換または故障により、ライセンスの再発行が必要な場合には、ライセンス再発行依頼書を作成し、弊社に郵送して頂く必要があります。

また、交換の場合、旧マシンにインストールされているライセンスをアンインストールしてから、ライセンスの再発行を依頼してください。詳しくは前述の「[ライセンスのアンインストール](#)」(P23)を参照してください。

弊社に「ライセンス再発行依頼書」を請求し、必要事項を明記のうえ、社判を押印してから弊社に郵送してください。再発行依頼書の確認後に弊社より連絡を差し上げますので、別途ライセンスの請求手続きを行ってください。ライセンス請求については、前述の「[ライセンス請求](#)」(P11)を参照してください。なお、ライセンス喪失により「**緊急ライセンス**」の貸与が必要な場合は、上記「**ライセンス再発行依頼書**」の**PDF ファイル**を添付し、お買い求めのパートナーまたは弊社(keysmaster@genexus.jp)までメールでご依頼ください。

緊急ライセンスについて

GeneXus Japan ではトラブルによりライセンスを喪失されたお客さまのために「**緊急ライセンス**」を発行しています。これはライセンスが再発行されるまでの暫定的な処置として用意されている 15 日間限定のライセンスです。したがって緊急ライセンスを取り込んだ後に、ライセンスの再発行(新規ライセンス請求)が必要となります。この場合、緊急ライセンスの残り日数が「**2 営業日**」となる前までに新規ライセンス請求を行ってください。ライセンスのアンインストールおよび新規ライセンス請求については、それぞれ、前述の「[ライセンスのアンインストール](#)」(P23)、「[新規ライセンス請求](#)」(P11)を参照してください。

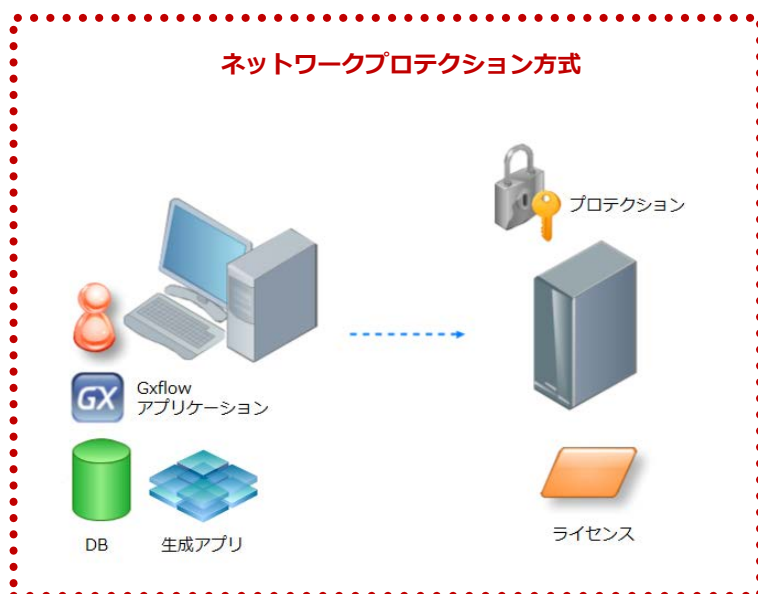
付録：ネットワークプロテクションの設定例

このセクションでは、下図で示すようなアプリケーションサーバーとは別のサーバー(プロテクションサーバー)にライセンスを保有させる場合(ネットワークプロテクション方式)の設定方法の一例を紹介します。設定内容はお使いの環境によって異なりますので、ネットワーク管理者またはシステム管理者にご相談ください。

ローカルプロテクション方式



ネットワークプロテクション方式



ネットワークプロテクションの設定について

ライセンスをネットワークプロテクション方式で運用する場合、次の要領でサーバーのセットアップを行います：

- a) ライセンスを保有するサーバーに「GeneXus Protection Server」をインストールする。
インストール方法については、後述の「[GeneXus Protection Server のインストール](#)」(P33)を参照してください。
- b) 「GeneXus Protection Server」をインストールしたサーバー(プロテクションサーバー)で次の環境設定を行う。
 - Windows ファイアウォール（「コントロールパネル」＞「システムとセキュリティ」）で送受信に TCP ポート 135 を許可する。
 - Windows ファイアウォール（「コントロールパネル」＞「システムとセキュリティ」）で「ProtSrv.exe」を許可する。
 - ユーザーの追加・設定（「コントロールパネル」＞「システムとセキュリティ」＞「管理ツール」）でプロテクションサーバーにクライアントの IIS ユーザーを同名・同パスワードで追加する。
詳細については、後述の「[管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について](#)」(P36)を参照してください。
 - 追加したユーザーにグループ「ARTech Remote Protection Users」を追加する。
詳細については、後述の「[管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について](#)」(P36)を参照してください。

GeneXus Protection Server のインストール

前述のとおり、GeneXus のライセンスシステムには、アプリケーションがインストールされているマシンにライセンスを保有させる「ローカルプロテクション方式」と GeneXus Protection Server にライセンスを保有させる「ネットワークプロテクション方式」があります。GeneXus および GXflow のご使用環境に応じて、ライセンスの保有先を決定する必要があります。「ネットワークプロテクション方式」の場合、ライセンスを保有するサーバーに「GeneXus Protection Server」をインストールする必要があります。このセクションでは、GeneXus Protection Server のインストール方法について説明します。

1. GeneXus Japan の Web サイト (<http://www.genexus.com/downloads/products-jp?ja>) からお使いの GeneXus のバージョンに対応する「GeneXus Protection Server」をダウンロードします。

2. 「gxprtsrvXXX.exe」といった名前のセットアップファイルを起動します（Windows Vista～Windows 10 をお使いの場合は右クリックして「**管理者として実行**」を選択します）。
次のような画面が表示されます。



3. 「インストール」をクリックします。インストールの進捗状況を示すプログレスバーが表示されます。

4. 次のようなセットアップ完了の画面が表示されたら、「**閉じる**」をクリックします。

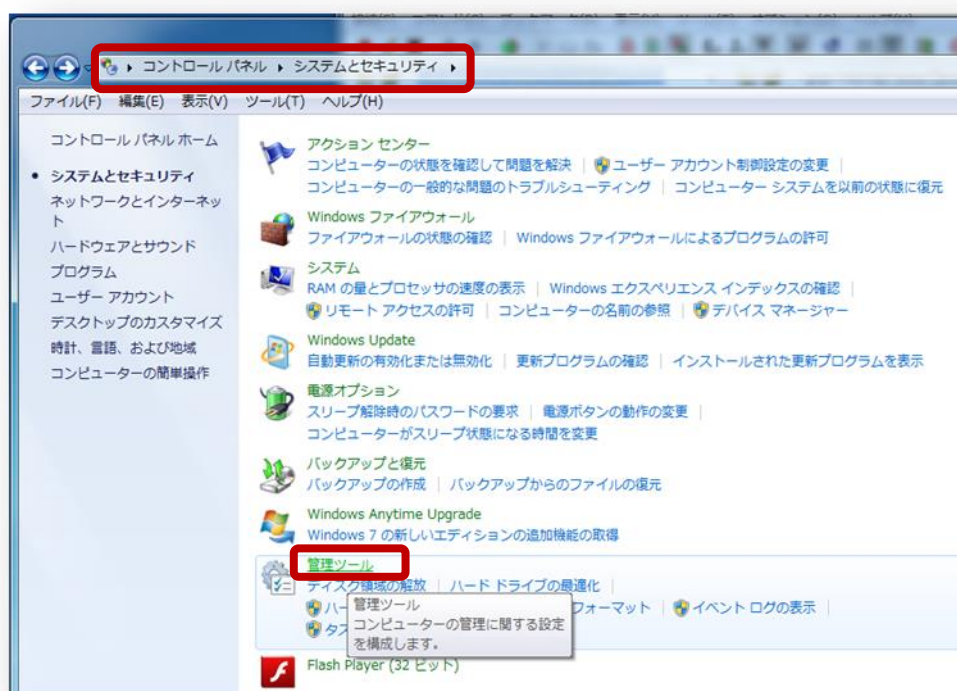


これで Protection Server のインストールは完了です。GXflow 15 アプリケーションを使用するには、ライセンスの請求／登録が必要です。前述の「[ライセンス請求](#)」(P11)の手順を参照してください。

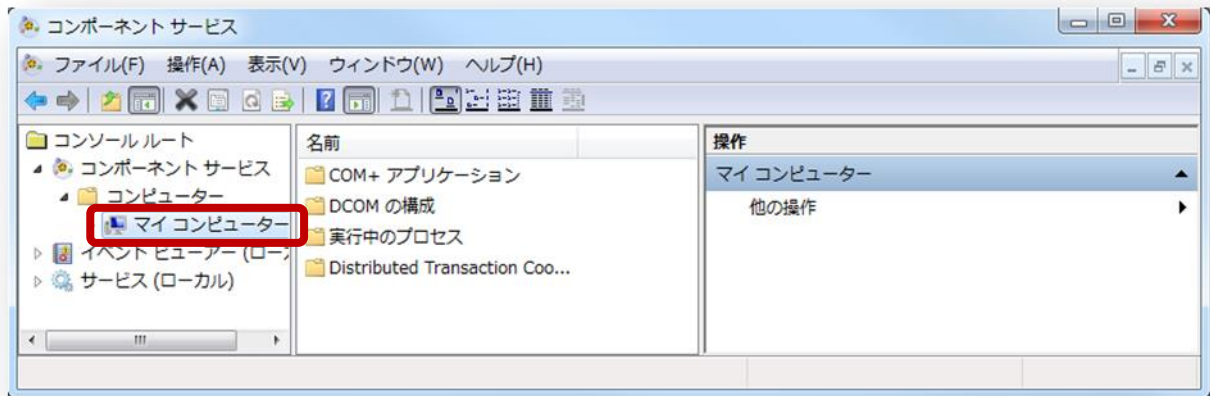
管理ツールでの Protection Server 用のユーザー設定について

このセクションでは、「管理ツール」での Protection Server 用の設定手順について説明します。

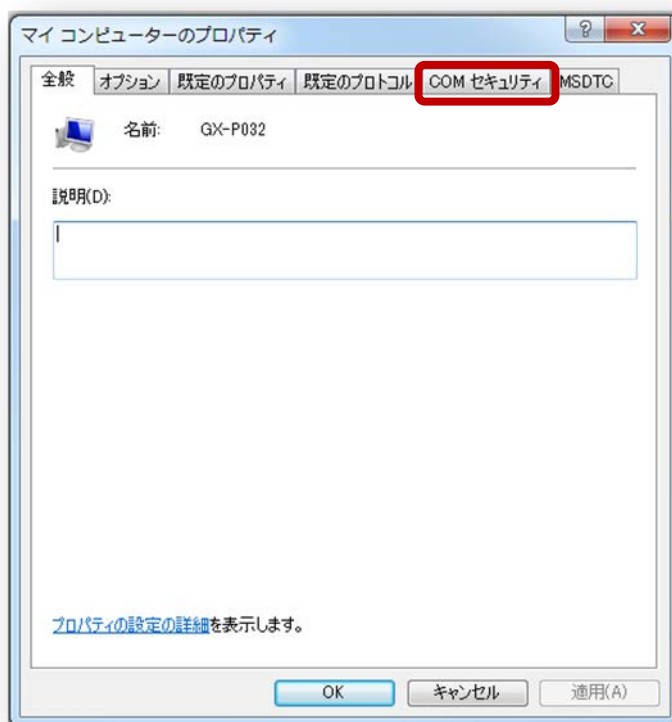
1. GeneXus Protection Server がインストールされているサーバーのスタートメニューから「コントロールパネル」>「システムとセキュリティ」>「管理ツール」と選択します。



2. 表示されるウィンドウから「コンポーネント サービス」（ショートカット）を選択します。
 3. 「コンポーネント サービス」ウィンドウの左側の欄から「コンポーネント サービス」ノードを展開し、さらに「コンピューター」ノードを展開します。
- 次のような「マイ コンピューター」ノードが表示されます。

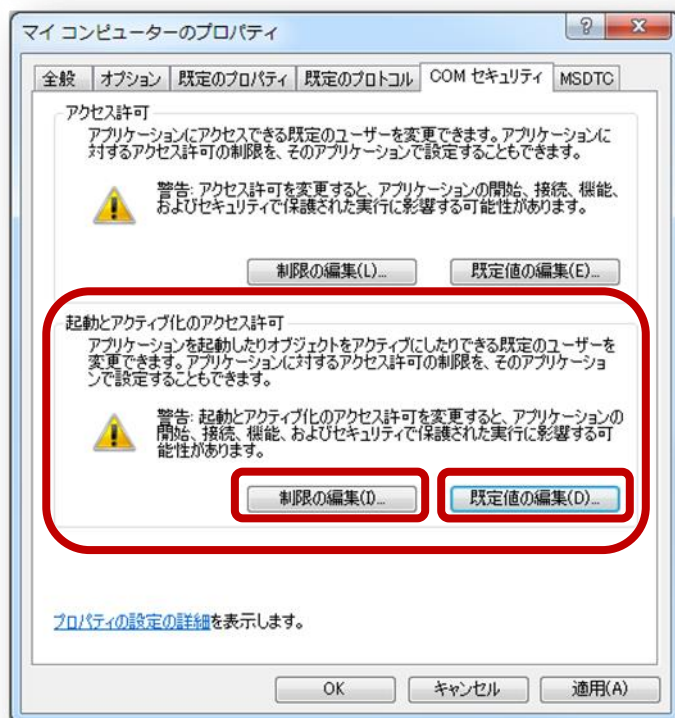


4. 「マイ コンピューター」ノードを右クリックし「プロパティ」を選択します。
 次のような「マイ コンピューターのプロパティ」ウィンドウが表示されます。



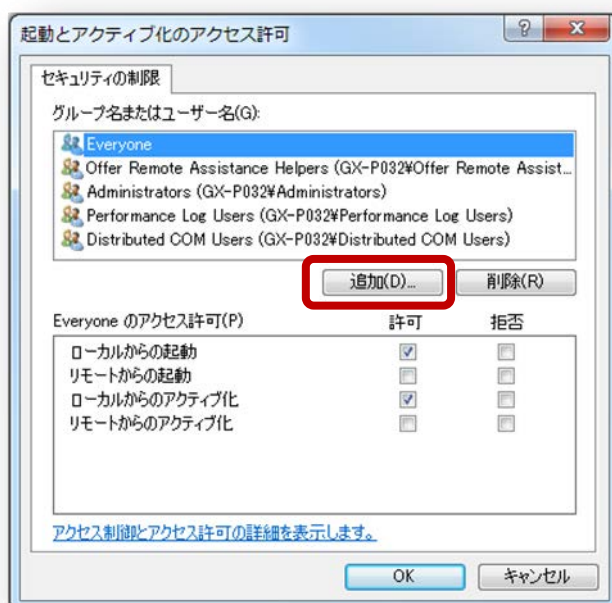
5. 「COM セキュリティ」タブをクリックします。

次のような「COM セキュリティ」パネルが表示されます。



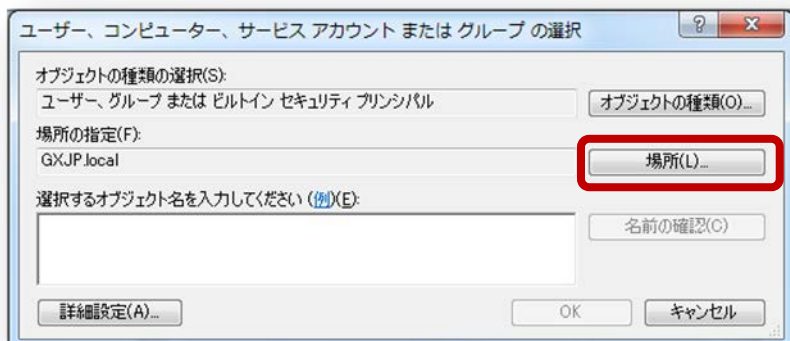
6. 「起動とアクティブ化のアクセス許可」セクションにある「制限の編集」をクリックします。

次のような「起動とアクティブ化のアクセス許可」ウィンドウが表示されます。

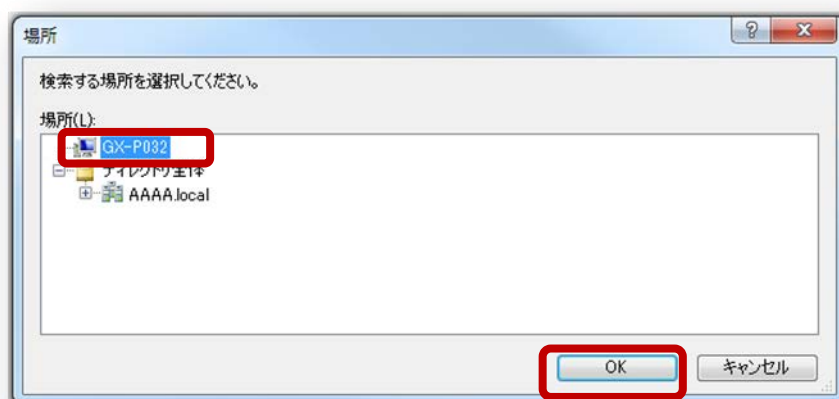


7. 「追加」ボタンをクリックします。

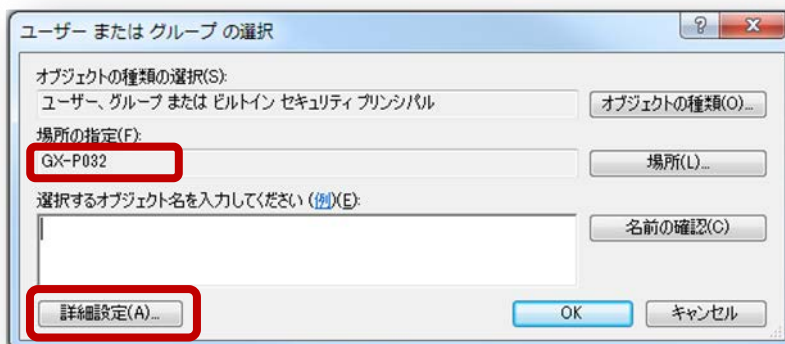
次のような「ユーザー、コンピューター、サービス アカウント または グループの選択」ウィンドウが表示されます。



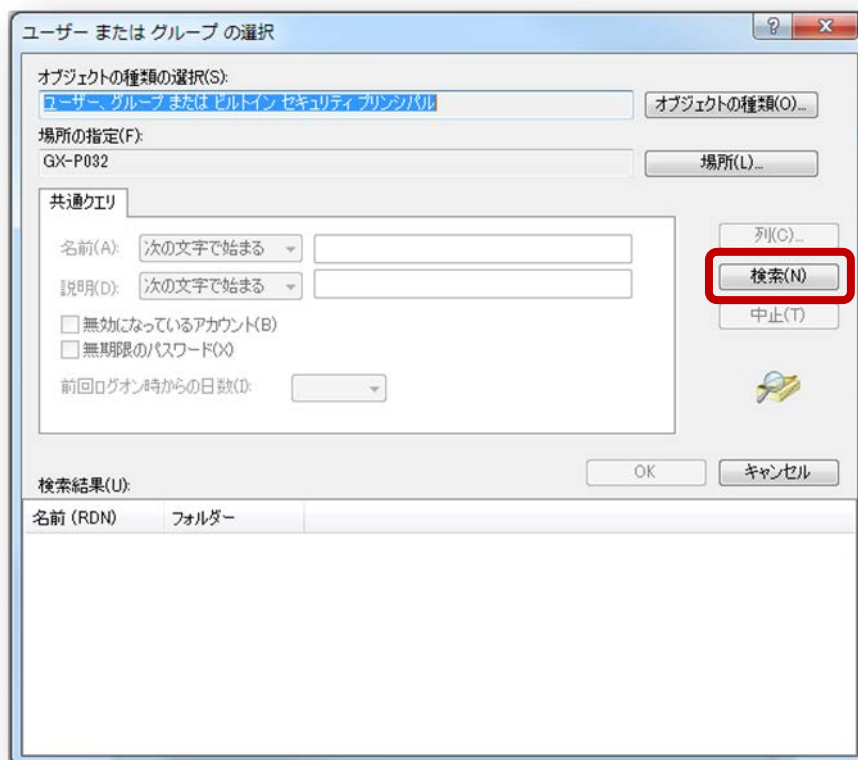
- 次のような「場所」ウィンドウが表示されたら、GeneXus Protection Server がインストールされているコンピューターを選択し、「OK」をクリックします（下図の例では「GX-P032」という名前のコンピューターに GeneXus Protection Server がインストールされています）。



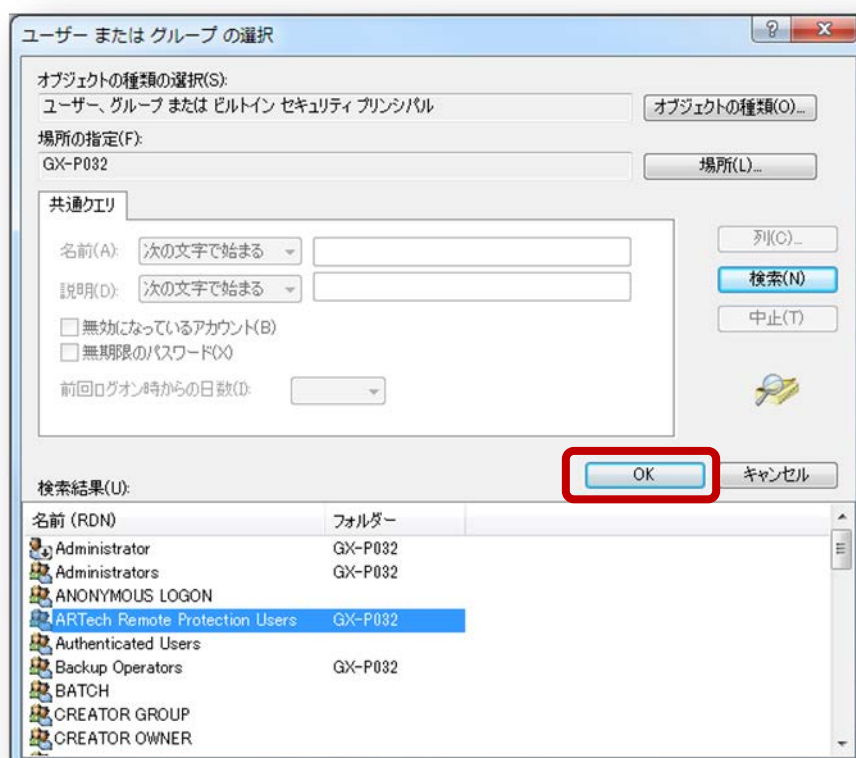
- 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウが表示されます。「場所の指定」フィールドに手順 8 で指定したコンピューターの名前が表示されていることを確認し、画面下部の「詳細設定」をクリックします。



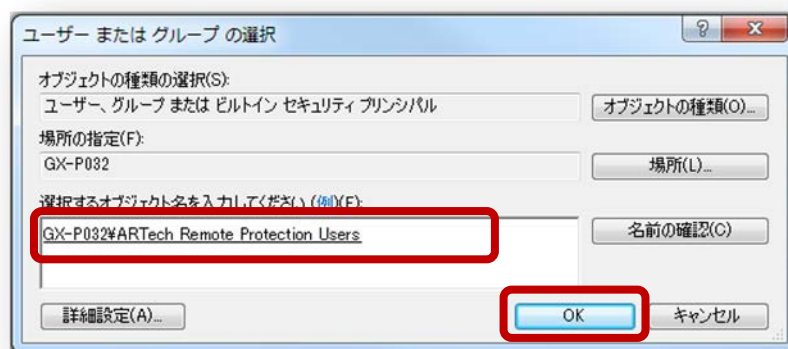
10. 次のような画面が表示されます。「検索」をクリックします。



11. 画面下部に表示される検索結果から「ARTech Remote Protection Users」を選択し、「OK」をクリックします。

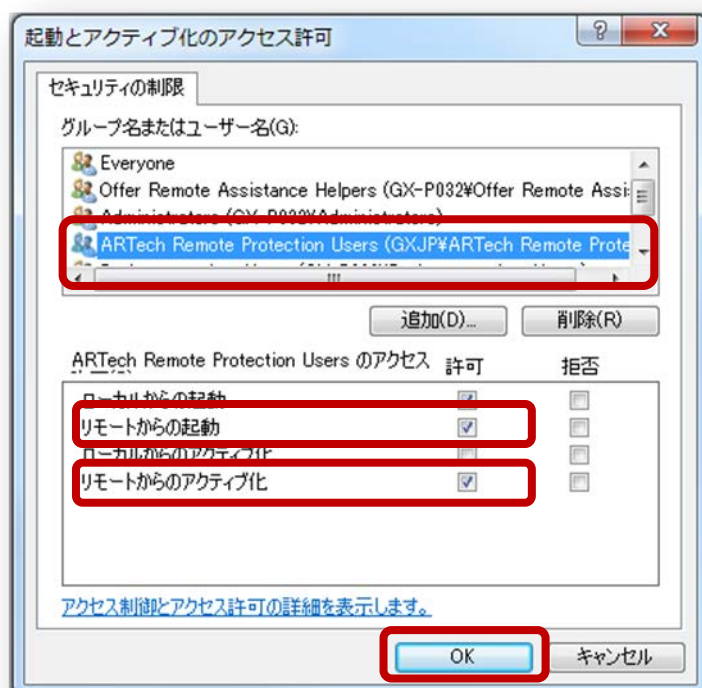


12. 次のような「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウが表示され、画面下部の「**選択するオブジェクト名を入力してください**」のフィールドに「ARTech Remote Protection Users」と表示されていることを確認してから、「**OK**」をクリックします。



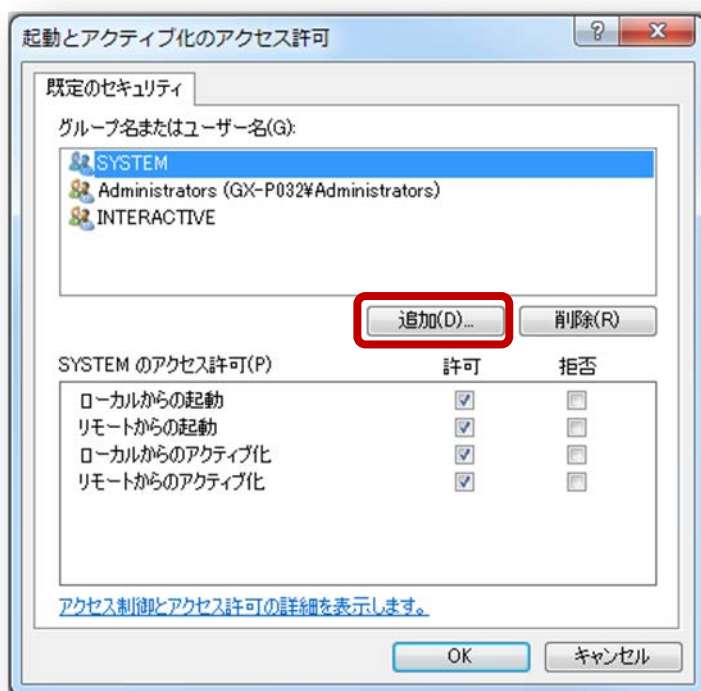
13. 次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。「**グループ名またはユーザー名**」の一覧から「**ARTech Remote Protection Users**」を選択し、画面下部の次の項目の「**許可**」のチェックボックスを選択します。

- リモートから起動
- リモートからのアクティブ化

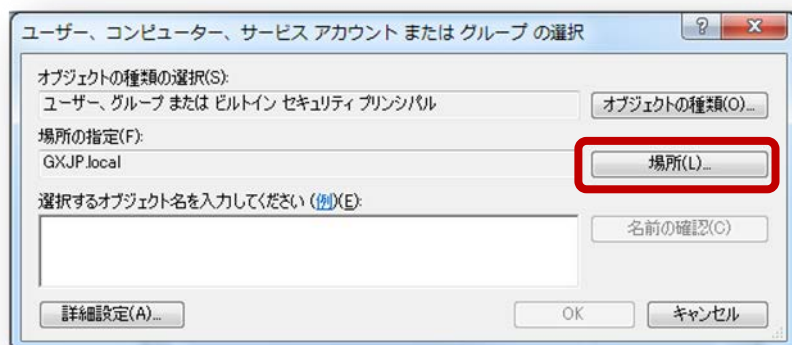


14. 「**OK**」をクリックします。手順 5 の画面が表示されます。「**既定値の編集**」をクリックします。

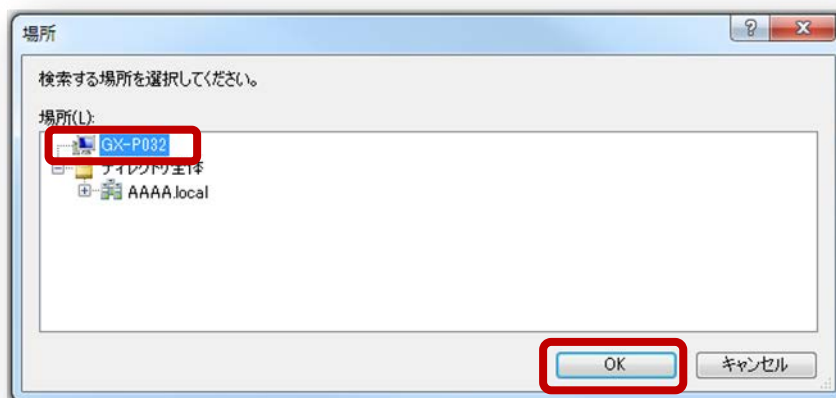
15. 次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。「**追加**」をクリックします。



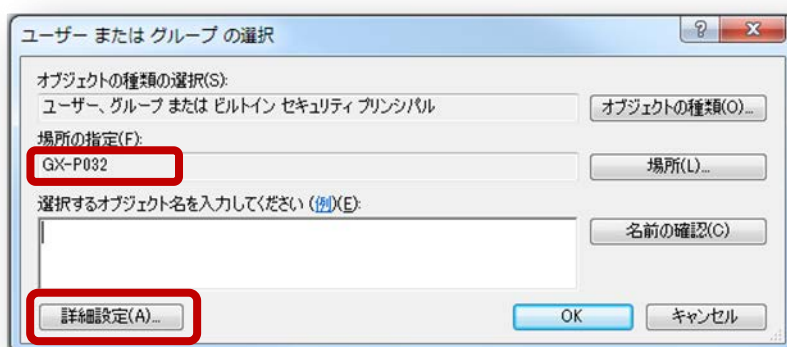
16. 次のような「**ユーザー、コンピューター、サービス アカウント または グループの選択**」ウィンドウが表示されます。画面右側の「**場所**」をクリックします。



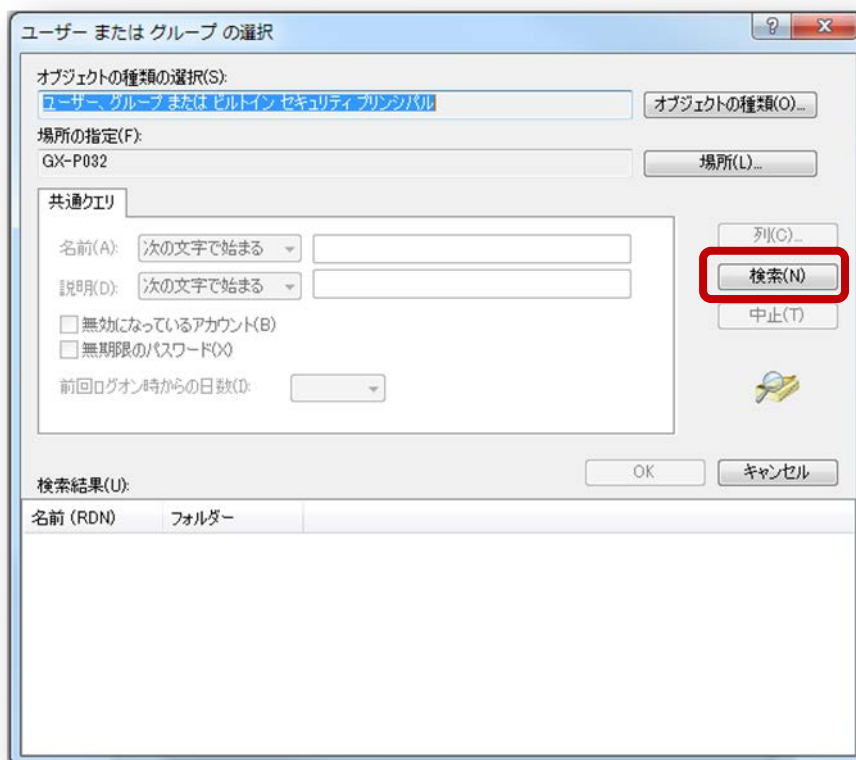
17. 次のような「場所」ウィンドウが表示されたら、GeneXus Protection Server がインストールされているコンピュータを選択し、「OK」をクリックします（下図の例では「GX-P032」という名前のコンピュータに GeneXus Protection Server がインストールされています）。



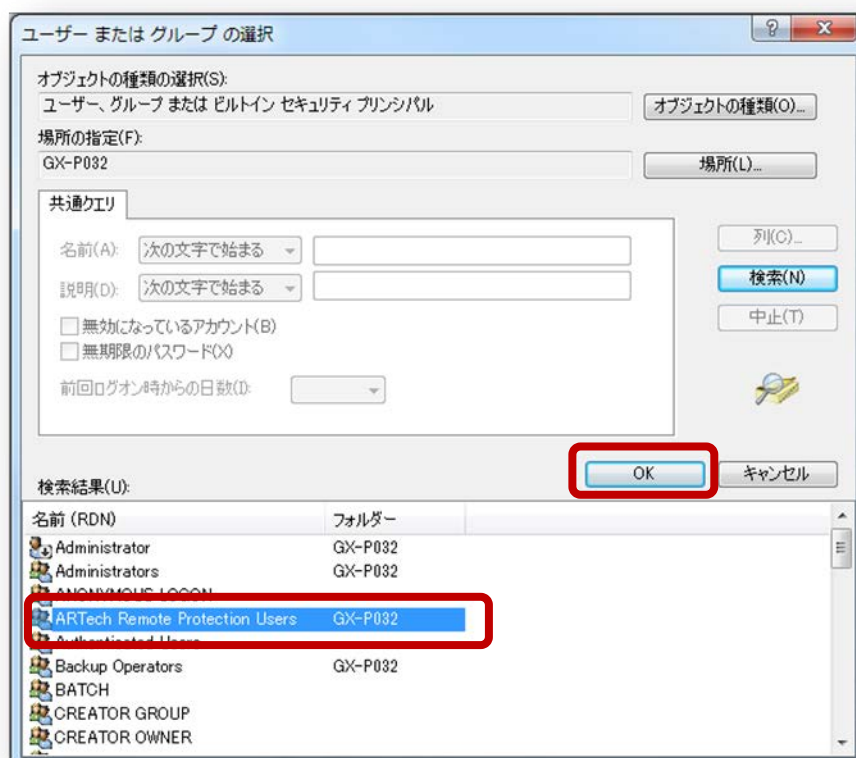
18. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウが表示されます。「場所の指定」フィールドに手順 17 で指定したコンピュータの名前が表示されていることを確認し、画面下部の「詳細設定」をクリックします。



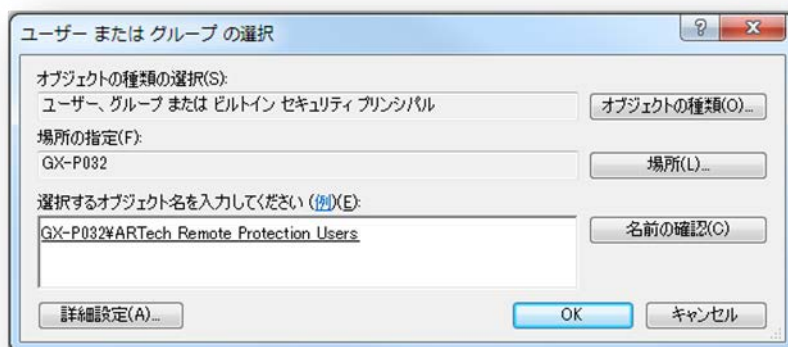
19. 次のような画面が表示されます。「検索」をクリックします。



20. 画面下部に表示される検索結果から「ARTech Remote Protection Users」を選択し、「OK」をクリックします。

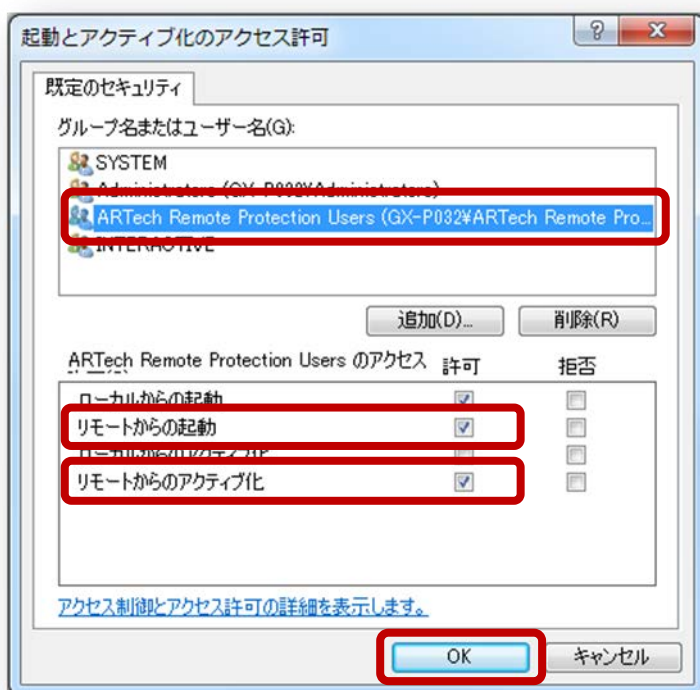


21. 次のような「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウが表示され、画面下部の「**選択するオブジェクト名を入力してください**」のフィールドに「ARTech Remote Protection Users」と表示されていることを確認してから、「**OK**」をクリックします。

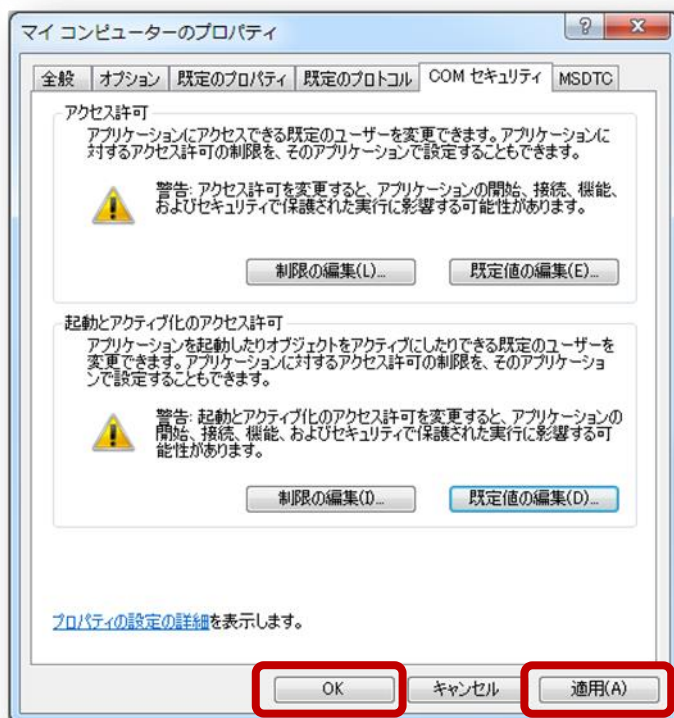


22. 次のような「**起動とアクティブ化のアクセス許可**」ウィンドウが表示されます。「**グループ名またはユーザー名**」の一覧から「**ARTech Remote Protection Users**」を選択し、画面下部の次の項目の「**許可**」のチェックボックスを選択します。

- リモートから起動
- リモートからのアクティブ化



23. 「OK」をクリックします。次の画面が表示されます。



24. 「適用」をクリックしてから、「OK」をクリックします。

これでクライアントユーザーのアクセスが許可されます。

参考：この書類では Windows 7 を例にした手順を記載しました。その他の OS をご使用の場合は、画面の内容が異なります。コントロールパネルの名称および設定方法については、お使いの OS のヘルプを参照してください。

トラブルシューティング

ネットワークプロテクションの設定についてご不明な点がある場合は、「問題追跡システム」に問題の詳細を登録してお問い合わせください。「問題追跡システム」は GeneXus Japan の Web サイトからアクセスすることができます。